

## 10/31 (土) 第1回 WS「環境啓発と「場」を考える」を開催しました！

5回シリーズの第1回 WS（ワークショップ）を開催しました。墨田区内・区外から25名の参加があり、簡単な自己紹介からスタート。すみだの環境学習に長年携わってきた方、最近すみだにきた方、今日初めて「すみだ環境ふれあい館」を知った方、など多彩で年齢的にも20～70代と幅広いメンバーが集まりました。

まずは、WSシリーズスタートの経緯と、これから5回の予定をお話しし、会場としても利用した墨田区の環境啓発・学習施設「すみだ環境ふれあい館」の概要を説明しました。続いて、環境啓発の場を考えるにあたっての話題提供として、都内近郊の環境啓発・学習施設6カ所について、視察レポートがありました。後半はグループに分かれての意見交換。環境施設のあり方について印象に残った点を出し合い、その中から「すみだの環境啓発にとって「場」とは？」「すみだに求められる環境啓発・学習のあり方とは？」を探りました。グループごとにすみだならではの視点がたくさん登場し、予定時間いっぱいまで活発な議論が行われました。

### 開催の背景：すみだ環境ふれあい館とは

2001年に開設された、墨田区立の環境啓発・学習施設「すみだ環境ふれあい館」（以下、ふれあい館）は、現在使用している旧文花小学校北棟の建物老朽化のために、およそ4ヶ月後の2016年2月末に終了することが決まっています。

開設以来14年間、雨水活用、探検家関野吉晴氏の足跡、環境をテーマにした絵本・書籍等の展示・閲覧コーナー、すみだリサイクルの会の定期活動、都会での緑化推進を学ぶ「よりどりミドリ」の活動などの実践を重ねてきました。同時に、環境に関わる講座やイベントを開催する「環境学習」の場としても活用されてきました。区民はもちろん広く内外から評価されてきた施設を失うことで、すみだの環境学習の未来はどうなるのでしょうか？

今回、これまでこの施設に携わり、環境の学びの機会を創ることに努めて来たメンバーが発起人となって、有志グループ「すみだの環境啓発・学習を考える WS」を立ち上げ、今、この根本的な問いを改めて発信し、多くの皆さんと一っしょに考えたいという想いから、このワークショップシリーズを企画しました。

今、行政においては、多くの老朽化施設のマネジメントが課題となる中、環境教育のための施設の新設など、夢物語となってしまった感がありますが、私たちはだからこそ、これから未来に向けて、一般市民が環境について学ぶ「場」や「機会」を誰がどのように作り出すべきなのか、それはどうしたら達成できるのかについて、実践例に学び、多くの方のご意見をいただきながら、考えてみたいと思います。

2月末まで続くシリーズでは、環境学習を取り巻く今、公共・民間の「場」づくりの今を学びあいたいと思います。そしてわたしたちの「すみだ」における「環境」とその学び方のために、これから実行すべきことを共に考えあいたいと思います。5回のワークショップで議論された内容は、提言としてとりまとめ、広く発信していく予定です。

### 都内近郊の環境啓発・学習施設は今

ふれあい館の運営は、区から業務委託を受ける形で区内のNPO法人雨水市民の会が行っています。今回は、館スタッフ有志が、勤務外の活動として都内近郊の環境啓発・学習施設6カ所を視察し、理念や目的、運営体制、課題、特色をうかがってきました。同じ環境啓発・学習の現場に携わる目線で、ふれあい館との比較を行いながら施設を紹介し、後に続くグループディスカッションのきっかけとしました。

台東区の環境ふれあい館ひまわりは、前身であるリサイクルプラザの要素を残しつつ、図書館の併設、隣接する公園を活かした屋外活動など、複合施設的な側面が特徴となっています。えこっくる江東は、月6～7回の講座をコンスタントに開催し、区内区外を問わず参加者を集めており、住民層の変化に合わせて幼児から参加できる講座を増やすなどの工夫をしています。足立区都市農業公園は、広大なフィールドを持つ施設ですが、「俳句」「アロマ」といった必ずしも環境を前面に出さないプログラムで幅広い方に自然に触れる機会を設けています。港区では、「みなとモデル」という、公共施設に国産材を使用する仕組みをつくり、エコプラザも床、壁、机、イスなどにあきる野市の間伐材を使用することで区としての環境施策が体现されています。20年の歴史をもつ板橋区立エコポリスセンターは、若い世代の人材育成や、スタッフがパートナーとなって登録団体を育てる仕組みが事業の充実につながっています。また、三鷹市星と森と絵本の家は、環境啓発を目的とした施設ではありませんが、結果的に身近な自然にふれること、観察することを促す場となっており、来館者の「気づき」を編集・発信する手法も注目すべきものでした。

#### 環境啓発・学習施設 事例紹介

1. 台東区・台東区環境ふれあい館ひまわり
2. 江東区・えこっくる江東環境学習情報館
3. 足立区・足立区都市農業公園
4. 港区・港区エコプラザ
5. 板橋区・板橋区立エコポリスセンター
6. 三鷹市・三鷹市星と森と絵本の家

# グループディスカッションでは、 すみだならではの環境啓発・学習について、すみだに求められる場について、 たくさんのキーワードが登場しました！

## グループ ①

### ● 地域の拠点として「場」は絶対的に必要

場ができることによってつながりが生まれる、自治体、区民、学生団体、企業とのつながりができることによって活動が広がってくるし、人材育成も進んでいく。

### ● 「拠点」を広く捉える

テーマにもものすごく多様性があり、楽しみ方もいろいろある中で、啓発の「入り口」と「接点」が重要になる。

すみだならではの「入り口」として、雨水活用もあるけれど、新しく町家とかアートとか下町とか絵本とか祭りとか何か人情系の切り口もあるのではないかな。それから「接点」でいうと、すっと入れる敷居の低さが大事ではないかな。

### ● 区内の人材を活かす

アイデアとして、路地で屋台形式で活動するとか、出前授業をやっている方も多いので学校をもう拠点にしましてもいいのではないかな、「わんぱく天国」など区内にすでにあるいろんな施設とコラボするのもありなのではないかな。

## グループ ③

### ● 何のため、 誰のため何の施設か？

自治体の政策との一致、行政の熱意も大切な要素のひとつ。ただ、よく考えてみると「何のためにやるのか？」、施設そのものが「誰のためにあるのか？」という部分は、もう一回原点に帰って考えてみないといけない。ふれあい館は子どもをメインにやってきたが、では環境学習って何のために、誰のためにあるのか？というところは、まだ疑問が残っている。

### ● 「環境」を広く捉えるネットワーク型施設

墨田区は川や運河があり、震災や空襲の経験があって、防災には非常に意識が高いとか、こういったことも本当は全部環境問題として繋げて一緒に学ぶということがあっていいのではないかな。そうすると、区内には色々な施設があって、例えば、両国には慰霊堂、江戸博もちょっと使わせてもらえないかなとか、大横川親水公園に小さくても拠点ができると、水のことが学べる…そういうことで、今ある施設を上手に使って環境学習できる拠点とポイントのネットワークを作ってはどうか。

### ● 区内の人材を活かす

人を育成する。色々なスキルを持った人たちがたくさんいて、語り部もいて、そういう人達が区内の拠点拠点にいれば、外に出かけて行って出前授業をやることもできる。ネットワークをつくれれば、場はどこでもいいのではないかな。

## グループ ②

### ● 場には「拠点」と「フィールド」がある

「フィールド」を備えた施設はすみだには無理だから、「拠点」として、小さく間借りでもいいからポイントがあって、活動のフィールドとしてはつながりながら町へ入っていく。「環境 × ○ ○」…、まちあるきとか、自転車とか、カフェとか、そういったものがたくさん資源としてあるのではないかな。

### ● 「すみだモデル」を言葉で共有！

地域特性を共通認識として、みんなが言葉として共有することがすごく重要。「みんなが誇れるすみだモデル」というのを、色々話しながら言語化するのが大事ではないかな。そのやり方として、すみだらしいのは、井戸端とかサロンのような場。学習とか授業（構えた形）ではなくて、井戸端・サロンのような場でどンドン喧々諤々話すがいいのではないかな。学校に行くのも大事だけれど、町へ出かけていろいろなことをやっていくすみだらしい環境学習、環境啓発のスタイルができるのではないかな。

## すみだの 環境啓発・学習とは？ 求められる「場」とは？

## グループ ④

### ● 地域資源を洗い直す

すみだ環境ふれあい館も防災から雨水利用が始まって施設ができたとという経緯がある。「地域資源」をもう一度洗い直すところから始めたらいいのではないかな。例えば「町工場」が多い場所なので繊維のリサイクル、職人さんがいっぱいいるので伝統技術を学ぶなど、そういう地域資源を見直すことで、「すみだだから」できることが何かかわかり、環境学習拠点ではどういう人たち、どういう団体と連携したらよいかが見えてくるのではないかな。

### ● 「見る」「知る」「体験する」という学び方

「伝える」「教える」というよりは「自分で発見する」「自分で気づく」というような空間や場づくりが必要になる。今はインターネットとかで知っているつもりになっていることが沢山あるけれども、それを実際に見る・知る・体験するという場が都市には必要なのではないかな。

### ● 複合施設という受け入れ方、こもらない活動

複合施設はひとつのやり方として有効なのではないかな。カフェや食事スペースがあると、いろいろな人が滞在しやすい、施設機能が複合的だと環境に興味のない人も受け入れることができる。また大事なものは、拠点をつくる場合も、そこでやることに精一杯になっただけで、出張したりつながり開拓すること。それによって拠点も活発になるし区全体の盛り上がりにつながる。